

子どもたちの

秋祭り



わぁ天狗と獅子舞や！
 やりゆう人、僕しっちゅうで
 近所のお兄ちゃんがやりゆうが
 こわいけんどこかつこい
 僕らを守ってくれゆう
 神様のためにしてくれゆうがで
 大きくなったらやりたいな…

立山神社(野市町)11月1日(土)
 以前は子どもの獅子舞と棒打ちがあったが、
 現在は大人のみの奉納となっている

人と人を繋いでできた

地域の祭り

かつては自然に子どもたちに受け継がれた地域の
 お祭りや伝統芸能。
 年々、後継者不足が深刻になり、時代の流れととも
 に形を変え、途絶えてしまったものもあります。
 暮らしは豊かで便利になり、様々な娯楽が溢れる社
 会。個々が楽しみを選び、希薄になってゆく近所付き
 合いや世代を超えた交流…大人も子どもも忙しく、古
 来からの伝統芸能を伝える地域の場は、失われつつあ
 ります。
 そんな今、伝統芸能を次の世代へ継承し、子どもを
 地域の中で育てようと、頑張つて取り組んでいる姿を
 紹介します。

「たくさんの方が学べる
 もう一つの学校」



子どもたちに伝統芸能を継承し
 ていく取り組みや、地域への思い。
 夜須町上夜須地区の上夜須棒打
 ち保存会会長の永野さんにお話を
 うかがいました。



上夜須棒打ち保存会
 会長 永野公明さん

上夜須八王子宮の奉納

上夜須八王子宮では、少年少女
 の「花棒」と青壮年の「二十人棒」が
 奉納されます。
 子どもたちの打つ「花棒」は、二人
 一組で「かちかち」とおり「れんぎ」
 の三種からなり、現在は「1番」「2
 番」「3番」の号令で演舞が開始さ
 れます。11月9日の大祭に向け、今
 年は10月27日から毎晩練習に励ん
 できました。子どもたちの気を引く、
 練習後のお菓子や大人たちの笑顔
 は欠かせません。

人が教科書

心と技を育む

指導は、手作りの紙芝居を使っ
 た棒打ちの歴史の勉強から始まり
 ます。実技には、かつての経験者の
 若者が指導に当たり、檉の棒で打

継承される地域の温もり

今年、文化庁の補助金を利用し、
 子どもの法被を新調しました。保
 育園児から中学生まで幅広く声を
 かけ約20人の子どもが集まり、に
 ぎやかにしました。
 八王子宮の境内は、一体感が感
 じられ、子どもや大人たちのかけ
 声や笑い声に包まれています。
 そして、地域の神祭を楽しみ大
 事にしていく人たちの姿からは、
 今も昔も変わら
 ぬ心の豊かさが
 伝わってきます。

